

本園は、札幌の手稲山のふもとにあり、自然に囲まれとても恵まれた環境にあります。園庭は芝生で、畑やビオトープもあります。昭和59年に敷地内に『小鳥の森』という空間づくりをしました。33年の間に、小鳥の森はトントン広場ができた、焼き窯トレインができたなど、様々な変化を遂げ、平成13年には『小鳥の森ビオトープ』として生まれ変わりました。この環境の中で、平和幼稚園の子どもたちは、虫や木の実などたくさんの自然に直接触れることができました。ただ、小鳥の森と名前が付いている空間にもかかわらず、なかなか小鳥とふれあうことができず、子どもたちも小鳥に興味関心がもてないのが課題でした。そんな時、地域環境計画さんとの出会いがあり、子どもたちに小鳥に興味関心を持ってもらうきっかけとして、樹木調査や巣箱の設置にご協力頂き、今回創立40周年記念ということで、このような図鑑絵本を製作することになりました。巣箱はそ

それぞれのクラスに一つずつ、各教室の窓から見える位置を意識して設置しました。『いつになったら、ことりさん来てくれるの?』と、毎日窓から巣箱を見つめている子もいました。鳥は空を飛んでいることもあり、虫や花などのように手にとって観察することは難しいので、ご提供いただいた野鳥の写真や絵などを園内や各教室に掲示し、園児の興味関心を深めるように環境を整えていました。その後、すべての巣箱というわけにはいきませんでした。が、巣箱の利用の形跡が見られるようになりました。教室によって差はありましたが、窓からヒナに餌を運び食べさせる姿が見られたクラスもありました。ただ、巣箱の中は園児が見ることはできないので、この度このような図鑑絵本を作ることで、巣箱の中の様子を伝えてあげられたらと思いました。自然に恵まれた環境が当たり前すぎて、なかなか目を向ける機会がない子どもたちに、これをきっかけに、もっともっと自然の素晴らしさを

感じ、自然に興味関心をもってもらうとともに、自然を大切に作る気持ちが育ってくれたらと思っております。園児に親しみやすいよう、デザインや構成を工夫し、実際に行っていたクラス対策なども盛り込むことによって、より身近なものに感じてもらうようにしました。また、巣箱が開けるようにすることで、幼児が楽しめる工夫もしました。クラスで読み聞かせたりするとともに、全園児に配布し、家庭でも手に取ることができるようにするとともに、卒園生が進学する小学校や地域の方にも配付しました。絵本を手にした子どもたちは、改めて巣箱に興味を持つようになり、『はやく、しじゅうからさんきてくれないかなあ・・・』と期待する声も聞かれました。今年の観察がますます楽しみになりました。





